

出張報告書

下 関 市 議 会 議 長 殿

令和7年10月14日

職氏名 議員 江村 卓三	用 務 第87回都市問題会議
期 間 令和7年10月 8日(水)から 令和7年10月11日(土)まで	出張先 栃木県宇都宮市

別紙のとおり

○研修報告書（第 87 回 全国都市問題会議）

日 時：令和 7 年 10 月 9 日（木）～10 日（金）

場 所：ライトキューブ宇都宮（宇都宮駅東口交流拠点施設）

今回の「全国都市問題会議」のテーマは、「成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり」で、人口減少と少子高齢化の到来とともに今後の都市経営にあって、いかにしてそのかじ取りを担っていくかの課題について、いろいろな角度からお話をお聞きしました。



日本の人口が 2000 年代後半にピークを迎え、日本の経済の低迷とともに人口減少・少子高齢化によって成熟社会の到来が認識されるようになると、都市部を中心として空き家問題が表面化し、都市のスポンジ化がみられるようになってきたとのこと。この都市機能の持続を確保する手段として、コンパクトな都市の再編が求められている。どのような都市のすがたが理想的であるかは、都市

としての地域差もあり、柔軟に地域にあったまちづくりが必要となる。

その持続のあるまちづくりを考えるうえで、最近の流れである郊外への人の流れと一戸建ての住宅取得の動きを、中心部へと計画的に誘導していくことが不可欠になるが、課題でもある。その課題である郊外へのひとの流れを抑え、中心部へと方向づけることは簡単ではないが、コンパクトなまちづくりを計画しつつも、郊外での生活志向も考慮したまちづくりをする事例も紹介。

そのひとつが宇都宮市で、郊外に拠点となる生活空間を複数構築し、L R T（ライトレール線）を軸とした移動手段により中心部を結ぶネットワーク型の都市を構築している。（市長による報告あり）

（L R T：ライトレール線。

バスとの乗り継ぎをしても、
市内のどこから乗っても中心
市街地まで 500 円以内の運賃）



高松市では、既存の一般道や鉄道網を新たに再編する形での都市の集約化を図る多核連携型都市を目指したまちづくりを行っているとのこと。（報告あり）

また、民間活力の利用（P F I 手法）や、公共施設と商業機能が混在化した複合施設を立地させることで中心部の賑わいを取り戻している自治体も多くみら

れるとのこと。空洞化の進んだ中心部の空き家等を、リノベーションすることにより市街地を再生した取り組みの事例などの紹介がありました。

持続可能なまちづくりの実現にあっては、これまで行政主導により再開発整備が進められ、市民によるまちづくり活動はあまりみられなかったが、これからは、行政と住民との連携が形作られることで、持続性のあるコンパクトな都市のかたちが拓けてくる可能背が高まることが示されました。

○（10月9日）9：30～16：30

1. 基調講演「人口減少・成熟社会のデザイン」

京都大学名誉教授 広井良典

2. 主報告「人口減少社会に対応する都市の構造改革」

宇都宮市長 佐藤栄一

3. 一般報告

・「縮充」発想による公共施設マネジメント

東洋大学国際PPP研究所 南 学

・都市縮小時代の持続可能なまちづくり

高松市長 大西 秀人

・次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり

早稲田大学理工学術院教授 森本 章倫

○（10月10日）9：30～11：50

1. パネルディスカッション

（テーマ）成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり

コーディネーター：埼玉大学大学院人文社会科学研究科

教授 内田 奈芳美

2. 行政視察

プロスポーツチーム連携事例（栃木県総合運動公園東エリア）



日環アリーナ栃木

○宇都宮ブレックスによる講演

（バスケットボールBリーグ）



*2日間の貴重な聴講は、今後の活動に生かしてまいります。